

凡事徹底(縁)

八代第一中学校

生徒指導通心

第37号 2024. 3. 15 (金)

最後の目標：先輩から歴史を引き継ぐ！後輩を正しくリードできる先輩になる！！

校訓：一中生徒としての最善最高の自覚と実践 綱領：至誠貫徹・真理探究・耐久持続
学校教育目標：『みんなが安心して笑顔で過ごせる学校』
スローガン：『夢実現・自己実現』～笑顔と挑戦 一中プライド～

次年度の一中を担うみなさんへ～誰もが立派なリーダーになれるんです!!～

先日3月8日(金)卒業証書授与式が行われ、第一中学校の歴史を引き継ぐバトンが、在校生に引き渡されました。新執行部と新委員長のもと、新たな歴史の創造に踏み出そうとしている反面、リーダーとなることへの重圧や責任感から、不安な気持ちも芽生えてくるかもしれません。

しかし、心配はありません。『立場が人を作る』という言葉があります。これからは、様々な場面で、第一中学校のリーダーとしてこれでいいのかと「自問自答」することもあるでしょう。「意識」して生活することは大事なことです。与えられたチャンスを生かして、仲間のために、自分のために、精一杯尽力して下さい。

さて、みなさんは、「教えて！イチロー先生」という番組【YOU TUBEにて配信中】を観たことはありますか。その番組の中で、ある男の子が「うるさい生徒に静かにしてもらうためにはどうしたらいいですか？」と質問しました。それに対してイチロー先生は、「リーダーだから言うことを聞くということはないと思う。それを誰が言っているかが大事だ」と答えました。それを見ているみんなが、「あいつが静かにしろということなら、俺たちも静かにしなきゃと思わせることができるかどうか。」つまり、立場じゃなくて、誰が言うかが大事なところではないかと答えていました。中学校では、執行部、委員長、代議員、級長、班長、掃除のリーダー、給食のリーダー、行事におけるリーダー、部活動のキャプテンなど、様々な場面で多くの方が集団をリードする経験ができます。次年度に向けて、イチロー先生の言葉を参考にしながら、それぞれの役割の中で、自分を高めていくことが大切ではないかと思えます。

看脚下(かんきゃっか)～自分の足元を見る、己の立脚するところを見失わない～

自分のことばかり考えているうちは、悩みが尽きることはありません。
いつも周囲の人や多くの人のことを考えている人には、悩みというものはありません。
イエローハット創業者 鍵山秀三郎さんの言葉より

鍵山秀三郎さんは、1933年に東京で生まれました。何不自由のない幼少時代を過ごしていましたが、戦時中の疎開で生活は一転しました。食うや食わずの生活に陥ってしまいました。しかし、鍵山さんは、ここで身につけた忍耐力が自分にとって唯一の財産になったと語っています。

鍵山さんは、20歳のときに単身で上京し、自動車用品を扱う会社に就職しました。利益至上主義の社風が合わずに8年で会社を辞めてしまいましたが、鍵山さんがこの職場で始めたのが、「真心を込めて掃除をすること」だったそうです。「意味がない」、「生産性がない」と何度も先輩や同僚に言われながらも、荒んだ業界を変えたいという信念で続けたそうです。

1961年には、イエローハットの前身である、株式会社ローヤルを創業しました。自転車一台での行商の日々でも、誰よりも早く出勤し、信念をもって掃除に励んでいました。

社員には、決して掃除を強制しなかった鍵山さんですが、その姿を見て、一人また一人と仲間が増えていきました。社内や店舗だけではなく、周辺地域、さらに取引先の下イレにまでその輪が広がっていきました。そして、この掃除が社員の意識を変え、社外からの信頼につながり、会社を大きく成長させていきました。

1997年に東証一部に上場すると、翌年、鍵山さんは経営の第一線から退きました。その後は書籍や講演で、日本のみならず世界に向けて、掃除の素晴らしさを伝えておられています。

私はこの話に出会ったとき、「私たちは人と人とのつながりの中で生きている」ことを改めて実感しました。誰かのために生きることこそが、自分の人生を豊かにし、世の中をよくすることにつながるのだと思います。周りの人へ感謝できる人ほど幸せな人だと思います。